

内科

循環器内科主任部長 川井和哉

医師の異動

2020年度の医師の異動は、山本博隆（3月）、岡本奈緒（3月）、矢野慶太郎（3月）、高橋誠（3月）、松田英之（3月）、山本哲史（3月）、高松正宏（3月）、東谷典史（5月）、一森俊樹（8月）、富士田崇子（9月）、西村拓哉（10月）各先生の退職、吉田莉奈（4月）、河本マリナ（4月）、青山夏希（4月）、大川良洋（4月）、三戸森児（4月）、細田勇人（4月）、吉村和修（4月）、木田遼太（6月）、平川雅海（10月）、竹下昌宏（10月）、鈴木隆宏（12月）各先生の着任があり、2020年1月現在48人の陣容となっています。初期研修医として、岡眞萌、木下敦夫、黒川夢彦、小林海里、馬場咲歩、保地陽輝、村川和也、森河内萌、山口宗祥、吉本光平、二瓶拓史（群馬大とのたすきがけ）の11名が近森病院内科での研修を開始し、又、高知医療センターの清水真祐子（1ヶ月）、細木病院の中尾朋未（3ヶ月）、高知大学の澤村大造（6ヶ月）の内科研修をおこなっています。

新たに、細見直永先生に脳神経内科部長、渡邊圭介先生に循環器内科科長、中山修一先生に総合診療科科長になっていただき、診療・教育体制が一層充実してきました。ひきつづき、吉村公比古、金子恵子（神経内科）、一森俊樹、高松正宏、富田秀春（消化器内科）、北村聡子（循環器内科）、近澤宏明、吉村江里（内分泌代謝内科）各先生に、外来や検査、診療の応援にきていただき、大いに助かっています。

研修医教育

各専門科カンファレンス以外に、症例検討会（毎週火曜日数例）、CPC（臨床と病理の検討会）（月1回）、研修医症例検討会・サタデーカンファレンス（月1-2回）を開催し、内科全般の中広い症例を経験してもらうよう心がけています。浅羽部長を中心として、開始時間や症例数などを工夫し、出席率も改善しています。世代交代が進み議論が活発になることを楽しみにしています。

診療実績

2020度の診療実績は、新入院患者数は一部をERの先生が担当してくれたため7144人（2.5%減、平均在院日数12.69日）、外来延べ患者数58544人（1.0%増）でした。ひき続き、救急や外来の積極的受け入れ、各部長による病院・診療所訪問、平均在院日数の短縮、経費節減など、院長、両副院長を中心とした積極的な取り組みによって前年度以上に経営収支の改善が得られています。

図1 内科新入院患者数

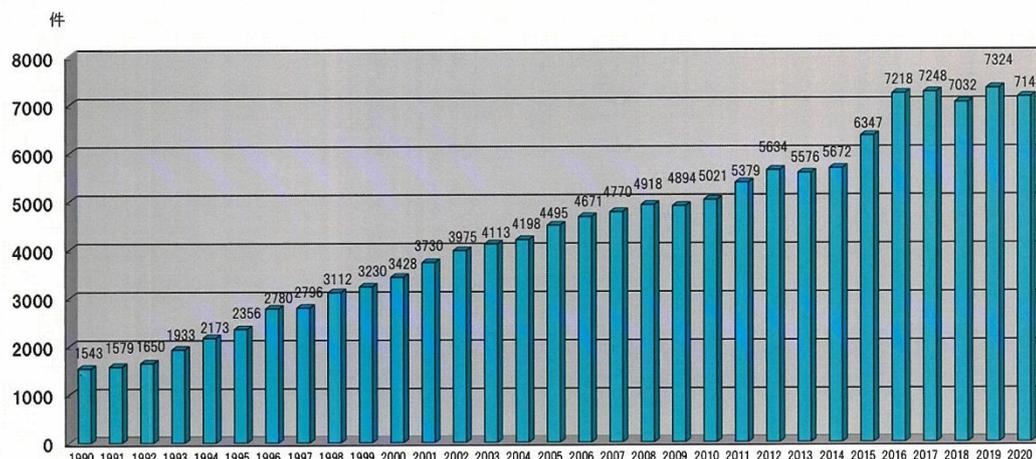
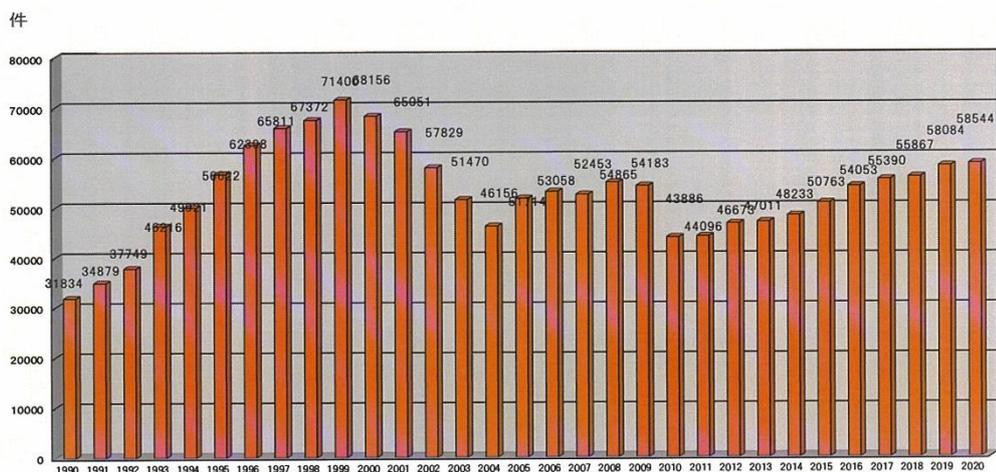


図2 内科外来延べ患者数



おわりに

当院内科は浜重直久先生が1988年に着任し開設されました。当初より heroism より humanism、research-oriented より patient-oriented、specialist である前に generalist、何ができるか (can) ではなく何が必要か (should) を考える医療を原点に診療してきました。初期には10名に満たなかった内科医も今では、総勢50名近い大所帯となりました。これまで大内科制を継続してきましたが、各内科の専門性も高くなり、新しい体制を構築する必要がでてきました。常に変革を遂げていくのが当院らしさです。今回、市川博源部長が中心となり、2021年度から総合内科を立ち上げます。研修医や若手内科医の教育の受け皿となり、generalist としての基礎を身につけるには最適の場になると思われまます。多様性が求められる時代になっています。各自の希望に対し、自由かつ柔軟に対応できるのが当院内科の強みです。これからも、垣根が低く風通しのいい内科医局であり、高知県の内科教育のメッカとして発展することを願っています。